

障がい者の人権

障がいのある人を特別扱いしたり、障がいのある人は我慢するのが当然と考えたりしていませんか？

障がい者への人権課題

最近では、ユニバーサルデザインのある人にとってもずいぶん生活しやすい環境が整ってきました。しかし、障がい者用施設も本来に必要として、いる人が使えない、または、使える状態ではないなどの現状もあります。

例えばスーパードで入口近くにハートフル駐車場がありますが、平気でその場所に車が駐車してあり本場に必要の人が使えなかったり、目の不自由な人のための点字ブロックの上で自転車が止めてあり通れない、など思いやりのない行動によって困っている人がいます。

このように、道路の段差や障がい者トイレの不備など「目に見えないバリア」だけではなく、障がい者優先駐車場への駐車や点字ブロック上への駐輪といった理解のない行動や障がいのある人に対する誤解や偏見といった「目に見えないバリア」など、障がい者の社会生活をばむ障壁があ

ります。

障がい者の人権を守るための取り組み

国際的には、2006年障害者の権利に関する条約が国連総会で採択され、自立の尊重、非差別、社会への完全参加など、障がい者の人権および基本的自由を確保し、促進するための措置をとることを定めています。

国内では2004年、障がいを理由として、差別その他の権利利益を侵害することをしてはならないとして、障害者基本法が改正されました。また、障害者虐待防止法により、虐待によって障がい者の権利や尊厳がおびやかされることを防ぐ法律も施行されています。

県内でも「くまもと・夢・障がい者プラン」としてすべての障がい者が「熊本に生まれてよかった、住んでよかった、これからもずっと住み続けたい」と思える社会の実現をめざし、障がいのある人が地域で安心して生活できるよう障がい者施策の総合的な取り組みを推進しています。

わたしたちができることは？

今年の夏、ロンドンパラリンピック大会を夜遅くまで応援された人も多かったと思います。パラリンピック大会は、障がい者を対象とした大会で、世界最高峰のスポーツ大会です。

競技は障がいの特性や程度により、それぞれの能力と個性を精いっぱい発揮し、共に競い、共に喜び、共に感動したスポーツ大会であったと思います。

このパラリンピックのように障がいのある人が、ありのまま受け入れられ、不利益を受けることなく共に活躍できる、そのような暮らしやすい社会の実現のために、障がいや障がい者のことを正しく理解し、日常的なふれあいや交流を深めながら、明るく住みよい益城町をつくっていきましょう。

熊本県人権同和政策課

「人権研修テキストV」参照

益城町教育委員会

ふるさとの地名漫歩

歴史の変遷と地名

351

飯田山常楽寺⑪

(このようにありがたい観世音はその場の状況に合わせて三十三に姿を変え、十九種の法を説くその法力は限りなく、臨機応変の姿も尽きることなく十方国土(国の隅々)の刹(寺院)に姿を見せないことはなかった。衆生(大衆庶民)は常に観世音を仰ぎ尊びその恵に頼っていた。これ以上尊い仏が他にあるか。

ここに一人の老人がいた。彼は常楽寺の建物が破れ崩れたのを悲しみ、再建の大誓願を立てたが、家には少しの蓄えもなく頼るのは四衆(人々の助力)だけである。今は一夫治平四海安泰。堯風舜雨(中国古代の聖天子、堯帝・舜帝の徳があまねく天下に広がったのを風雨の恵に例えて、天下太平の意)の中人々は貧しい家々からも外に出て実りの歌を歌っている。寄付があつてのその時が来れば再建は必ず成就する。これは都中の幸せな事業であり肥後国内の徳政の象徴である。文武両官、緇素(黒衣と白衣、僧と俗人)の、四輩(多くの人々に)付してお願ひする。一本の針や草

(屋根を葺く茅・藁)、布の端切れや糸くずのような塵芥でもよく(寄付用の)筒に投げ入れ、水の罫でも筒の底にしたたらせれば積もりて山となり、たたえて海となり、もし我が願いが皆さまの望みを満たすことになれば、それは共に力をあわせて大仕事を成し遂げた功業者であろうか。

三十二相独尊(俗人にはない尊い仏の身体的な特徴・仏への尊称)が崇められたゆえんは、土地の凶亂を泳ぐ鎮められたからである。憑みとするのは十一面大士(千手観音)で、偏に国家の泰平を祝ひ仏の恵みははるかな年月にまでおよび、その徳風は萬世に盛んになるであろう。

益城町文化財を訪ねる会
会長 松野國策



日羅上人渡来図